



カツラ(カツラ科)ブナ林の湿潤地に多い、径1mの大木になるが株立ちが多い。



ガmazumi(スイカズラ科)里山の明るいところに多い、花は白で装飾花がない。



カマツカ(バラ科)昔、鎌の柄に使用した、赤い実を付ける、主に里山に分布する。



カンボク(スイカズラ科)湿地に多い、大きく3裂する葉が特徴、赤い実は冬でも残っている。



キブシ(キブシ科)早春に黄色の花を咲かせる、雌雄異株で実は染料に利用された。



クリ(ブナ科)里山の雑木林を代表する樹木の一つ、花は虫媒花、栗の実は太古から利用されてきた。



クロミノウゲイスカグラ(スイカズラ科)高山植物、薄黄色の花が2つずつ咲く、船形山



ケヤキ(ニレ科)径1m以上の大木になり岩場などに多く生育する。管内に普通、宮城県の木



コシアブラ(ウコギ科)ブナ林の日当たりの良いところに多い、新芽は山菜に利用される。



コマユミ(ニシキギ科)湿地に多い灌木、赤と橙の実が美しい、枝にこぶがあるとニシキギという。



クサギ(クマツツラ科)林縁に普通、芽を折ると独特の匂いがする、花は白、実は紺、ガクが赤で美しい。



クマノミズキ(ミズキ科)葉や枝が対生に付く、ミズキより1月程花が遅い、里山に多い。



コメツツジ(ツツジ科)標高1000m以上にある高山植物、小さな白い花が特徴。



ゴヨウイチゴ(バラ科)深山にある蔓状の灌木、茎に刺と毛があり白い花と赤い実がなる。